

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、県政の推進に格別の御高配を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、世界的な物価高騰や米国による関税措置など、先行きが不透明な厳しい経済状況が続き、県内の産業や暮らしにも影響を及ぼしました。特に、燃料や食材価格の高騰は、県民や事業者の皆様にとって大きな負担となり、県ではコメの価格高騰対策やガソリン価格適正化の検討、制度資金の拡充など、県民や事業者等の皆様への支援を実施したところです。引き続き、県民の皆様の確かな暮らしを守り、中小企業者等の安定かつ持続的な経営を支えるための支援を切れ目なく実施してまいります。

加えて、昨年の夏は国内で観測史上最高の暑さとなり、熱中症による搬送者数は初めて10万人を超えました。長野県でも6月の搬送者が前年の約2倍に迫る状況となり、高齢者や子どもなどリスクの高い方々をはじめ、職場や地域における予防対策を重点的に進めてまいりました。また、ツキノワグマによる里地での人身被害が相次いだことを受け、私を本部長とする「ツキノワグマ対策本部」を設置し、生態系との共生を重視しつつ、住民の安全確保や農作物被害の防止に向けて、人とクマとの棲み分けの徹底や捕獲強化等、県民の皆様が安心して暮らせる環境づくりを着実に進めてまいります。

昨年9月には全国知事会会長に就任し、地方自治一筋40年の経験を活かして、「現場から、日本を動かす。」というスローガンのもと、人口減少対策、ジェンダー平等の推進、脱炭素社会への移行などの中長期的課題に立ち向かうため、地方自治の現場から社会改革を進め、国への提言や基礎自治体との連携を強化してまいります。さらに、国・地方の役割分担の改革にも取り組

み、ナショナルスタンダードと位置付けられる業務を国の事務として再整理する

ことや、国の過度な関与の見直し、業務に見合った財源の確保など、制度の構造的な改革を国に提案してまいります。

複雑な山岳地形や気候によって多様な動植物が生息する自然豊かな本県の生物多様性増進を推進する拠点として、昨年12月には「長野県生物多様性センター」を開設しました。このセンターを中核に、環境保全活動の継続への支援や自然環境情報の発信など、本県の自然の豊かさを守り次世代へと継承していく取組を強化してまいります。

現在の長野県が誕生してから今年で150周年を迎えます。この記念すべき年を契機に、記念式典の開催など、県民と一体となって本県の価値や魅力を再発見し、共有し、さらに磨き上げていくための記念事業を多面的に展開してまいります。また、観光資源の充実を図るため、宿泊税の導入を進め、観光業の発展と地域振興を支援していきます。これらの取組を通じて、さまざまな人や地域の個性が融合した、より魅力ある長野県を目指してまいります。

気候変動をはじめとする環境問題には、令和3年度に策定した「長野県ゼロカーボン戦略」に基づき、徹底的な省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及拡大等に取り組んでおり、令和7年度は、10年間の計画期間の中間年にあたることから、内容の見直しを行っております。これまでの取組の成果を踏まえつつ、本県を取り巻く新たな課題や国内外の動向の変化に的確に対応する内容に改定し、各種取組の拡充・強化を図ってまいります。

結びに、皆様方の御健勝と御多幸を心より祈念し、新年の御挨拶といたします。



アルピコホールディングス株式会社（中信支部）



アルピコグループは、長野県を拠点にした企業グループで、流通・運輸・観光・不動産など多岐にわたる事業を展開しています。事業の多くは、長野の美しい自然環境を活かしたサービスであることから、企業活動を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。

グループとして、気候変動への対応を企業戦略の中心に据え、さまざまな取組を実施しています。まず、エネルギーの効率的な利用を促進するため、グループ全体で省エネルギー設備の導入を進めています。具体的には、LED 照明や高効率空調設備の導入を行い、エネルギー消費の削減を図っています。また、再生可能エネルギーの活用にも力を入れており、太陽光発電の導入を積極的に進めています。グループ内の施設においてソーラーパネルを設置し、自家発電を行うことで、CO₂ 排出量の削減に貢献しています。加えて、CO₂ フリー電力の導入により、持続可能なエネルギーの利用を促進し、環境意識の向上につなげています。

他には、地域の環境保全活動にも取り組んで

います。例えば、地元の清掃活動に社員が参加したり、地域の小学生と協働で森林の大切さを学ぶ植林活動を開催したりしています。これにより、地域の自然環境の保護に努めながら、地元住民との関係を深め、地域の活性化と持続可能な社会の構築を目指しています。

今後、アルピコグループは気候変動への取組をさらに強化していく方針です。具体的には、2050 年までにカーボンニュートラルを達成するため 2035 年の中間目標として、CO₂ 排出量を 2019 年比で「40%」削減すべくロードマップを策定しております（図）。この計画には、エネルギー効率のさらなる向上や、再生可能エネルギーの導入拡大が含まれます。

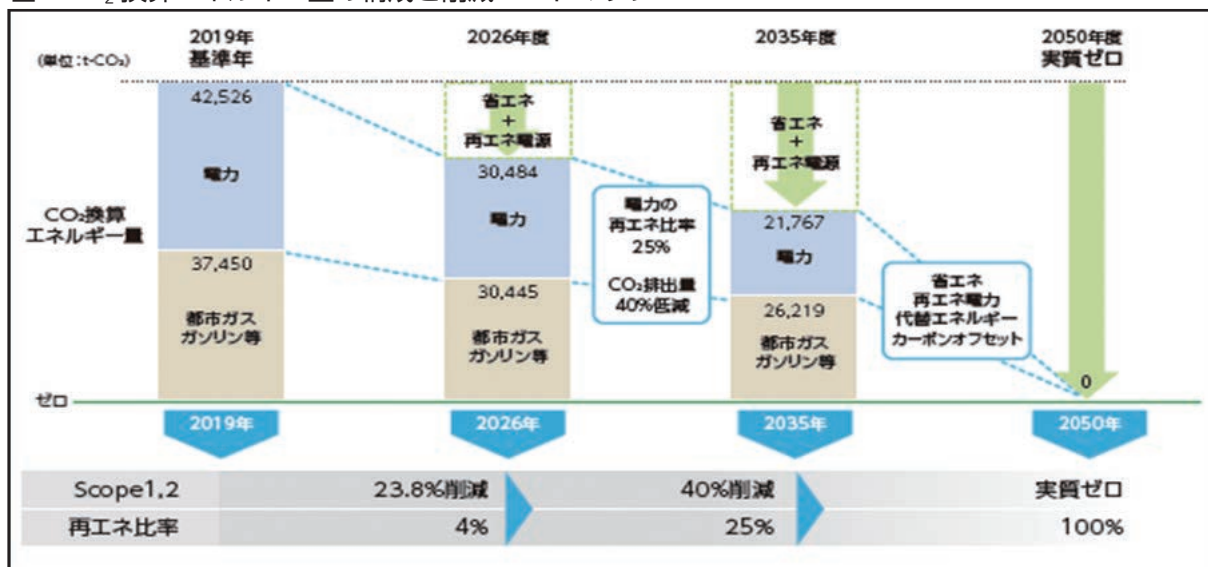
地域社会との協力を強化し、環境保全に関する啓発活動を通じて、地域住民とともに持続可能な未来を築いていくことを目指します。

アルピコグループは、事業活動を通じて環境問題に立ち向かうだけでなく、地域の人々と共に歩む企業としての責任を果たしていく所存です。（経営企画部 上沼 優）



ALPICO GROUP

図：CO₂ 換算エネルギー量の構成と削減ロードマップ



アルピコの森 植林活動



流通店舗 太陽光発電設備



伊那食品工業株式会社 (伊那支部)



プラスチックに頼らない、食べられる包装材の可能性。環境への配慮と利便性を両立させた、新しい食品包装として注目されています。

当社は家庭用製品ブランド「かんてんぱぱ」などで知られる、寒天・ゲル化剤などの研究開発を進める総合ゲル化剤メーカーです。寒天の加工技術を活かし、顆粒や錠剤、麺など幅広い製品を開発してきました。近年、プラスチックごみによる環境問題が深刻化し、食品包装でも石油由来プラスチックに代わる素材への関心が高まっています。こうした背景の中で誕生したのが「可食性フィルム」です。

当社の可食性フィルムは天然由来の多糖類を原料とし、食べられることと生分解性を持つことが大きな特長です。寒天加工の技術は 1958 年から磨かれ、可食性フィルムの研究は約 30 年前に開

始、2005 年から製造・販売を行っています。特にヒートシール¹⁾可能な「トンボのはね」シリーズは、包装材の代替として活用が進んでいます。お湯で溶け、そのまま調理や喫食できるため、粉末調味料の個包装や乾麺の結束帯に適しています。「トンボのはね HS」は 60℃で溶け、シール強度²⁾が約 6N/15mm あるため個包装に最適です。一方、麺結束用の「トンボのはね KS」は茹で工程で溶ける設計で、帯取り作業を省くことができます。

従来のプラスチック包装の完全代替にはまだ課題がありますが、当社は技術開発を継続し、環境に優しく機能性も高い次世代包装材の開発を進めています。これからも挑戦を続け、より多くの場面で役立つ製品を生み出せるよう、さらなる改良と開発に取り組んでまいります。

(専務取締役 塚越 亮)

1) 熱と圧力を利用して材料を接合する技術。お菓子の小袋、カップラーメンの蓋の接着等、幅広く利用されています。

2) シール強度はヒートシールのはがれにくさを示し、単位は N/15mm。カップラーメンの蓋の強度は約 3 N/15mm

伊那食品工業株式会社



環境への配慮と利便性を両立させる可食性フィルム（「クレール」と「トンボのはね」）

クレール
天然素材から生まれた
食べられるフィルム

「トンボのはね」
で雑穀を 1 回分包んで
そのまま投入し雑穀米に

「トンボのはね」 で束ねたそうめん
束を取らずに使える



日置電機株式会社（上小支部）



気候変動や環境汚染は、世界的に深刻化しており、人々の生活や生態系に大きな影響を与えています。このような状況の中で、環境保護への取り組みは企業に求められる重要な責務です。HIOKI は、「人間性の尊重」と「社会への貢献」という企業理念のもと、持続可能な社会の実現を目指し、生物多様性保全・脱炭素化・資源循環に向けた様々な取り組みを長年にわたって行っています。

まず、ご紹介するのは「HIOKI フォレストヒルズ」です。1988 年から、全社員による植樹活動を続け、約 93,000 本の木を植えてきました。敷地内の森では、希少な植物や昆虫が育つ豊かな生態系が形成されています。この森は、2024 年と 2025 年に連続して自然共生サイトに認定されています。自社製品を活用した光環境調査や定期的な植物調査を実施し、今後も自然共生サイトとして生物多様性保全に貢献していきます。

また、脱炭素化に向けて、2025 年（創業 90 周年）にスコープ 1・2 のカーボンニュートラル、2035 年（創業 100 周年）までにスコープ 3 のカーボンニュートラルを達成するという「HIOKI サステナビリティ宣言」を掲げ、その目標に基づき取り組みを進めています。その一環として、本社敷地内南側社員駐車場に発電容量 2MW のソーラーカーポートと 2MWh の蓄電設備を導入し、稼働しました。これにより、本社で利用する電力の約半分を自社で賄う予定です。加えて、カーボンニュートラルガスや CO₂ フリー電力への切り替え、社用車の EV 化などを推進し、環境負荷の軽減に努めていきます。



HIOKI フォレストヒルズ



ソーラーカーポート

資源循環への取り組みとして、HIOKI は 2025 年を「サーキュラーエコノミー元年」と位置づけ、再生材を使用した製品の導入を進めています。2025 年は再生プラスチックを使用した「クランプメータ 3280 シリーズ」の製造を開始し、材料削減や CO₂ 排出削減に貢献しています。今後、他製品にも展開し、2030 年までにプラスチック使用製品の 50%※を再生プラスチックに切り替えることを目指していきます。



AC クランプメータ 3280-10F

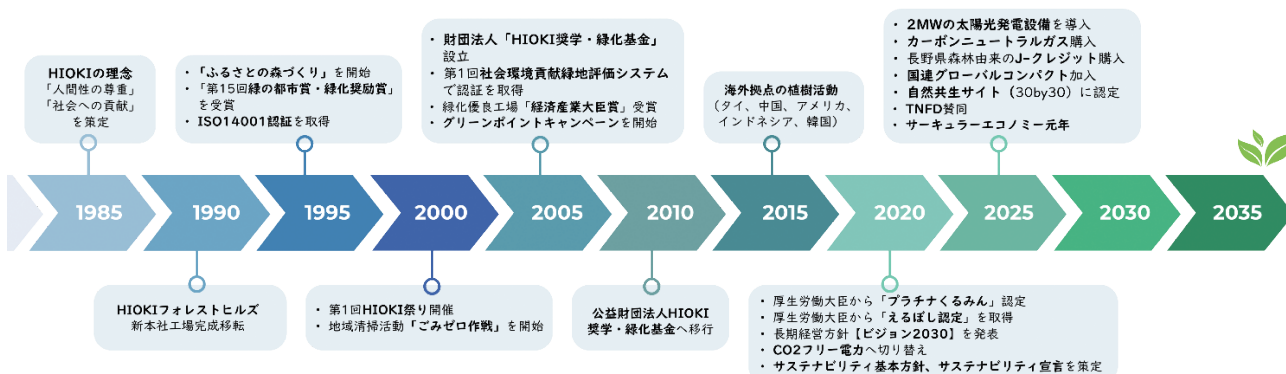
※ [分子] 再生プラスチック利用の主要製品（本体）の形名数
[分母] プラスチックを使用している主要製品（本体）の形名数

これらの活動は、社会的責任を果たすだけでなく、地域社会とともにグローバルな課題に対応する私たちの決意を示すものです。今後も HIOKI は電気計測器メーカーとして、技術を活かし、環境問題やエネルギー問題の解決に向けたソリューションを提供していきます。（経営企画部 ヴォ ティ ホン）

HIOKI



■サステナビリティ年表



小学校の畑

不耕起栽培サポーター

を募集します！

学校の畑を不耕起栽培で ～上田市立西小学校の取り組み

上田市立西小学校 教頭 宮下 聡

ことうん 耕耘の負担がない安全な食を

子どもたちの学習用に新聞記事を探していた時に、金子信博先生（島根大学客員教授）の『山ろく清談（信濃毎日新聞8月25日付）』が目に残りました。そこにはこう書いてありました。「小中学校で子どもたちと一緒に不耕起栽培に挑戦してみたいですね。『手間のかからない学校農園』で先生の負担も減らし、安全な食を届けられたら楽しいだろうなと思います。」

土壌生態学者の金子先生は「土壌の生態系を維持し、生き物の力を借りようというのが、不耕起栽培」ともおっしゃっていて、これは理科を長年教えてきた者として納得のいくお話でした。

「信州環境カレッジ」の支援を受けて

そこで、西小学校でも不耕起栽培ができないかと思い、金子先生に連絡し相談をしたところ、信州環境カレッジの「オーダーメイドで授業づくり」制度が利用できることになりました。

本校では4年生1クラス（28名）が総合的な学習の時間で環境を学んでいます。その一環で不耕起栽培を学ぶこととし、10月20日（月）に講師として陸

ひとし 斉さん（長野県環境保全協会）と小林慶子さん（長野県環境保全研究所）に来ていただいて、校庭の畑に、カバークロップとしてライ麦とヘアリーベッチの種を蒔きました（写真）。来春にはライ麦を倒して、ひまわり、ミニトマト、大豆を育てる予定です。

学校の不耕起栽培サポーターを募集

不耕起栽培は続けることが大事だということです。子どもたちは6年間で卒業しますので、次の学年にバトンタッチしながら続けていくことになります。教師も異動していきます。教師も子どもも変わってゆく学校で畑を維持していくためには、変わらずにずっと見守っていただける方が欠かせません。

そこで、不耕起栽培のご経験があり、子どもたちの野菜づくりを指導しながら一緒に見守っていただけるボランティア（無償）を探しています。情報をお持ちの方は、上田市立西小学校または長野県環境保全協会に連絡をいただければ幸いです。ご協力をお願いいたします。

< 連絡先 >

上田市立西小学校
0268-22-0419
担当：宮下

長野県環境保全協会
026-237-6620
nace@janis.or.jp
担当：陸（くが）



植物と共生する土の中の虫たちを観察する



ライ麦とヘアリーベッチの種を蒔く

1ヶ月後、葉が伸びた

金子信博さん 講演会（2025.8.2 / 長野市）

「人や緑の健康を支える土壌生態系」

<https://www.youtube.com/watch?v=tB2IGZ7CLE4>

* 信濃毎日新聞の『山ろく清談』インタビューはこの講演後に行われました。

講演会の YouTube ▶





イベント日記
2025

夏～秋は環境イベントのメインシーズン！

推進員の皆さんにもご協力いただき、スタッフ総出で今年も各地を巡りました。

7/5 ㊥

「第2回いいじま環境フェア」@ 飯島町文化館

今年2月に開催した第1回に続き夏の開催。強い日差しの中、クールシェアも兼ねたイベントとなり、当センターからは「環境マークでお買い物ビンゴ」「牛乳パック射的」「発電体験機器」を出展。第1回にお越しくくださった方々との嬉しい再会もあった1日でした。



7/12 ㊥ 13 ㊥

「地球・環境・未来フェス in みのわ」@ 箕輪町文化センター

町発足70周年記念事業として開催。テレビでおなじみの気象予報士の講演や、EVゴーカート、町庁舎に新設されたソーラーカーポート見学会など、企画が盛りだくさん。当協会も「うんこ先生特別授業」「お買い物ビンゴ」「デジタル地球儀スフィア」などを出展。小松千恵子推進員にもご協力いただきました。時間をかけて観覧・体験してくださる



方々が多く、役場の皆さんのイベントにかけける強い想いと、町民の皆さんの環境への関心の高さを感じた2日間でした。

8/3 ㊥

「こども祭り in ちくま&福祉の夢まつり」@ 戸倉創造館

こども食堂の活動支援や福祉の啓発をメインとしたイベントですが、千曲市内でこども食堂を主宰する笠井雪子推進員のお誘いで、「デジタル地球儀」や「発電体験機器」を出展。篠ノ井高校の生徒さんにもご協力いただき、地球温暖化防止について啓発。福祉に関心をもつ方々に当センターの活動を知っていただく良い機会となりました。



8/9 ㊥

「茅野市エコフェスタ」@ 茅野市役所

「茅野市の環境活動を『知り』、『今』から私たちができること」をテーマに、郷土のお祭り「茅野どんばん」と同日開催。当センターは、長年、市の環境部局と共に活動してこられた行田幸三推進員・中野昭彦推進員からご依頼いただき、「デジタル地球儀」や「発電体験機器」を出展。来場者に解説されるお二人の発熱とした姿が印象的でした。

9/20 ㊥ 21 ㊥

「東御市くらしを見直そう展」@ 東御中央公園



環境問題やくらしの安全に関するイベントで、なんと14回目。新田詔三推進員を中心に今回は屋外で開催。当センターは、「発電体験機器」と「ソーラークッカー」を出展。同日開催された「巨峰の王国まつり」来場者にも、発電の仕組みや太陽光のポテンシャルを紹介することができました。

9/23 ㊥祝

「2025 信州なかの環境フェア」@ 中野市市民会館ソラホール



昨年に続き、中野市生活環境課の皆さんとコラボ。2階フロアに「お買い物ビンゴ」「発電体験機器」「デジタル地球儀」を出展。うんこ先生は大ホールデビュー！！「地球温暖化編」「海洋ごみ編」の2本立て特別授業を実施。今回も大盛況で、「お買い物ビンゴ」では品出しが追い付かず、入店を一旦ストップするほど。前回を超えるイベントにしようと奮闘する市役所の皆さんの熱意と、環境について楽しく学んでみよう！という市民の皆さんのポジティブな雰囲気が感じられました。



11/1 ㊥ 2 ㊥

「南信州環境メッセ 2025」@ 飯田市エスバード

2021年から始まったイベントで、当協会は第1回から出展。秋の恒例行事となりつつあります。行政・企業・大学・NPOによる



地球温暖化防止活動推進センター通信

④ るブースが並ぶなか、当協会&センターは「デジタル地球儀」「うんこ先生の特別授業」に加え、**中村秋男推進員**（うちエコ診断士）にご協力いただき、久々に「うちエコ会場 WEB 診断」を企画。中村推進員によるお客様それぞれのご家庭に合わせた的確なアドバイスで、省エネについて理解を深めていただけたようです。



11/2 ④

「宮田村ふれあい文化まつり—未来を守ろう！
ゼロカーボンブース」@宮田村民会館



昨年度からオファーをいただきながら日程が合わず、2年越しで村初のゼロカーボンイベントを実現。「うんこ先生の特別授業」「お買い物ビンゴ」「デジタル地球儀」に加え、**宮原則子推進員**による「エコ・クッキング教室」を開催。地元の**壬生善夫推進員**が「発電体験機器」の解説を務め、特別授業に村公式キャラクター「みやさん」が出席し、宮田村ならではのイベントとなりました。



11/30 ④

「みんなでもっと知ろう！カーボンニュートラル」
@中川文化センター

昨年度に続き2回目の開催。今話題のペロブスカイト太陽電池をテーマとした講演や、村民の皆さんによる自由研究発表と合わせて、当センターは「お買い物ビンゴ」「発電体験機器」を出展。日常生活の中で手軽にできる取組みを紹介しました。



信州環境カレッジ
SHINSHU ENVIRONMENTAL COLLEGE

ゼロカーボン

動画コンテスト

気候を急激に変化させている温室効果ガスの代表格である CO₂。人間が排出する CO₂ を減らしつつ森林や土壌等に吸着させ、大気中の CO₂ 濃度を安定化させる取組み（ゼロカーボン）を推進するための PR 動画を、長野県内在住の方（個人、グループ問わず）から 10 月に募集しました。



表彰式（長野県知事賞）の
岡田将宏さん（右）

テーマは、省エネルギー・食品ロス削減・生物多様性保全等のゼロカーボンにつながる取組としました。

その結果、多くの皆さまから応募いただきました（応募総数は 45）。

11 月 27 日（木）に長野市内でナガノノさん他の審査員による審査をし（審査委員長：高木直樹 信州大学名誉教授）、長野県知事賞 1 名と企業・スポーツクラブ賞 10 名を選びました。

長野県知事賞 『未来の「いのち」』
制作：合同会社 mouse 岡田 将宏 様

今後、長野県知事賞作品は、県広報パートナーであるナガノノさんの SNS や、県の公式 LINE 等で紹介されます。また、入賞作品は信州環境カレッジの WEB サイトでご覧いただけます（右の QR コード）。



https://shinshu-ecollege.pref.nagano.lg.jp/zerocarbon_cm_award



審査員と入賞者（表彰式後の記念撮影～ポーズは N）

信州エコポスターコンクール 2025

長野県等*が、県内の小中学生を対象に募集する信州エコポスターコンクール（この形式は2021年から今年が5回目）の今年の入賞・入選作品が決まりました（最終審査会は10月22日）。

このコンクールは、小中学生に、ポスターの制作を通して環境保全に対する理解や関心を深めてもらうとともに、県民の方々の環境保全への取組を推進することを目的として行われ、当協会も会長が審査をするなど、協力しています。

今回は「未来のために、私たちが今できること」をテーマに、3部門（小学生低学年・高学年、中学生）毎に最優秀賞・優秀賞各1点と入選作品が選ばれました。

*主催：長野県・信州豊かな環境づくり県民会議・長野朝日放送株式会社



審査をする山浦会長

最優秀賞の3点



小学生（低学年）の部
福澤 結絆さん（松本市の2年生）



入選作品はこちらから
（長野県公式WEBサイト）



小学生（高学年）の部
山田 彩梅さん（富士見町の5年生）



中学生の部
工藤 一花さん（御代田町の2年生）

新会員紹介

一般会員

株式会社システックス	北信支部
八十二オートリース株式会社	北信支部
丸文通商株式会社 長野支店	北信支部
公益財団法人倉石地域振興財団 栗田病院	北信支部

*敬称略 50音順 法人・団体会員を掲載

賛助会員

株式会社エーシーエ設計	北信支部
株式会社信濃公害研究所	佐久支部
新日本警備保障株式会社	北信支部
千広建設株式会社	北信支部
野村證券株式会社 長野支店	北信支部
八十二インベストメント株式会社	北信支部
株式会社前田鉄工所	北信支部
宮後工業株式会社	上小支部

【発行元】〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

「エコシン」は「エコ信州」の略称です
2026年1月7日発行

●一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp <https://nace.main.jp/>

●長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp <https://nccca.or.jp/>

●長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp <https://www.eco-mame.net/>

